

〈没後50年記念〉特別企画展

モダンな こきめき

智積院襖絵
の魅力

The Allure of Fusuma-e
Mesmerizing modernity arose
in sliding doors of Chishakuin Temple

堂本印象、
長谷川等伯父子筆
国宝《桜楓図》に
対抗。



堂本印象《婦女喫茶図》(部分) 1958年 智積院蔵

2026 1/20_{tue}—3/22_{sun}

開館時間 9:30—17:00(入館は30分前まで) 休館日 月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日休館)

観覧料 一般800(640)円 高大生500(400)円 65歳以上400(320)円(要公的証明書)

()内は20名以上の団体料金 中学生以下無料 障害者手帳ご提示の方(介護者1名を含む)は無料

主催 京都府、京都府立堂本印象美術館(指定管理者:公益財団法人京都文化財団)、京都新聞 特別協力 総本山智積院
お問い合わせ 〒603-8355京都市北区平野上柳町26-3 Tel 075-463-0007 <https://insho-domoto.com>

京都府立 堂本印象美術館
KYOTO PREFECTURAL INSHO-DOMOTO MUSEUM OF FINE ARTS

〈没後 50 年記念〉特別企画展 モダンなときめき—智積院襖絵の魅力—

展覧会概要

堂本印象（どうもといんしょう 1891-1975）は、生涯にわたり全国 13 カ所の社寺の襖絵制作をおこなっています。今回は、印象没後 50 年を記念し、そのなかでも、現代女性を題材にした新感覚の襖絵として今なお高い人気を誇る《ふじょきつさず 婦女喫茶図》をはじめとする智積院の襖絵を紹介します。

昭和 33 年（1958）、智積院境内に賓客を迎える場として宸殿が再建され、そこに飾る襖絵として、印象に依頼がなされました。智積院には長谷川等伯父子による国宝《はせがわとうはく 楓図》《桜図》がありますが、宗教活動は時勢と無縁であってはならないという寺の意に添えて、印象は「百年ぐらいいは悪口を言われるだろう」という覚悟のもと、思い切りモダンな構想で描くことを決めたのでした。世間の批判をものともせず、新しい表現を追求し続けた印象の創作姿勢をご堪能ください。

また、本展にあわせて、茶の湯を愛した印象自らが手掛けた茶道具なども展示します。新収蔵品も約 20 点公開しますので、この機会に是非お楽しみください。

みどころ

京にモダンあり!!

革新的な表現で当時話題をよんだ智積院襖絵を紹介

昭和 33 年、堂本印象が依頼を受けて制作した智積院襖絵は、野点をする現代女性という寺院の襖絵としては型破りなモチーフを描いた《ふじょきつさず 婦女喫茶図》をはじめ、モダンな意匠によって注目されました。常に新しい表現を目指そうと果敢に取り組んだ、印象による襖絵 18 面（通常非公開）を特別に展示します。

智積院《ふじょきつさず 婦女喫茶図》にちなんで、茶の湯を愛した印象による茶道具に注目!

数寄者であった父・伍兵衛による影響で、自邸に茶室をしつらえるほど茶の湯に親しんでいた印象。自身の主宰する画塾東丘社でも茶会を催し、「精神修養に資する」として、芸術活動に重要な役割を果たすと考えていたようです。印象は茶の湯を嗜むだけでなく、茶道具も自ら制作していました。本展では、新収蔵品の茶杓《アビニオン》をはじめ、茶碗や釜など、印象ならではの独創的なデザインの茶道具を紹介します。

カラフルな抽象画や現代風俗を描いた作品など、 職員の選ぶ「モダンなときめき」が大集合!!

印象は伝統的な日本画にとらわれない、様々な「モダン」な作品を残しています。そのなかでも当館の職員が選ぶ、思わず「ときめく」作品を展示します。珠玉の作品をお楽しみください。

おもな出展作品

京にモダンあり!!
現代女性を描いた大胆な襖絵



《婦女喫茶図》昭和33年(1958) 智積院蔵

長谷川等伯父子筆
国宝《桜楓図》に対抗!



《松桜柳図》昭和33年(1958) 智積院蔵



印象による
モダンな茶道具たち…



茶碗《雨もまたよし》昭和39年(1964)

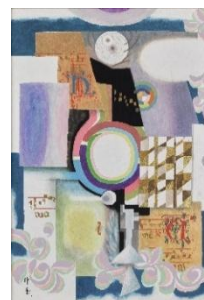


茶入《豊穰》、茶杓《アビニオン》昭和38年(1963)

職員の選ぶ
「モダンなときめき」



《モンマルトルのバー》昭和27年(1952)



《聖歌》昭和44年(1969)

※すべて堂本印象作 表記のない作品はすべて京都府立堂本印象美術館蔵

- ▶**展覧会名** 日：〈没後 50 年記念〉特別企画展 モダンなときめき—智積院襖絵の魅力—
英：50th Anniversary of his death Special exhibition
The Allure of Fusuma-e -Mesmerizing modernity arose in sliding doors of Chishakuin Temple
- ▶**会 期** 2026 年 1 月 20 日（火）～3 月 22 日（日）
- ▶**開館時間** 9:30～17:00（入館は 16:30 まで）
- ▶**休 館 日** 月曜日（月曜日が祝休日の場合は翌平日休館）
- ▶**入場料金** 800 円（640 円）、高大生 500 円（400 円）、65 歳以上 400 円（320 円）（要公的証明書）
※（ ）内は 20 名以上の団体料金。
※中学生以下および障害者手帳をご提示の方（介護者 1 名を含む）は無料。
- ▶**主 催** 京都府、京都府立堂本印象美術館（指定管理者：公益財団法人京都文化財団）、京都新聞
- ▶**特別協力** 総本山智積院

予定を変更する場合がございます。
ご来館前に当館ホームページなどで最新情報をご確認ください。

関連イベント

ギャラリートーク（参加費・申込不要、要観覧券）

- ▶**日 時** 2026 年 2 月 7 日（土）、3 月 7 日（土）いずれも 14:00 より
- ▶**会 場** 2 階展示室

シンポジウム

堂本印象『いの字絵本 恋の都大阪の巻』とは何か —青年画家の心をとらえた大阪のまちと女性—

『いの字絵本』復刊・復刻を記念して、シンポジウムを開催します。

<u>登 壇</u>	橋爪 節也氏	大阪大学名誉教授
	高井 多佳子氏	高島屋史料館 研究員
	杉本 喜代一氏	杉本梁江堂（『いの字絵本』発行元）
	正木 利和氏	美術ジャーナリスト（元産経新聞文化部編集委員）
	松尾 敦子	京都府立堂本印象美術館 主任学芸員
<u>進 行</u>	林屋 祐子	京都新聞社 文化部

- ▶**日 時** 2026 年 2 月 1 日（日） 13:30～15:30（開場 13:00～）
- ▶**場 所** **住まい情報センタービル 3 階ホール** 大阪市北区天神橋 6 丁目 4-20（大阪くらしの今昔館 同ビル内）
- ▶**定 員** **150 名【無料/要申込】** ※2025 年 12 月 12 日（金）より受付開始（予定）
- ▶**主 催** 堂本印象と大阪研究会、京都府立堂本印象美術館、京都新聞
- ▶**共 催** 大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）
- ▶**助 成** 公益財団法人 芳泉文化財団

※申し込みなど詳細は当館ホームページで発表